

十字架を背負った人々  
～バルナバ～

シリーズ・十字架(続編)

## 「慰めの子」と呼ばれた人

「レビ族の人で、使徒たちからバルナバー—『慰めの子』という意味—と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。」

<使徒 4:36-37>



# 「自分を捨てた」バルナバ

## ■ レビ族を捨てた

- レビ族は神殿で仕える特別な部族だった
- レビ族(祭司)はイエスを十字架にかけた首謀者だった

## ■ 財産を捨てた

- 畑を売り払うことで、神に全く信頼することを表明した



# サウロ(パウロ)の味方になった

サウロはエルサレムに着き、弟子の仲間に加わろうとしたが、皆は彼を弟子だとは信じないで恐れた。しかしバルナバは、サウロを連れて使徒たちのところへ案内し、サウロが旅の途中で主に出会い、主に語りかけられ、ダマスコでイエスの名によって大胆に宣教した次第を説明した。それで、サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の名によって恐れずに教えるようになった。

<使徒9:26-28>



## パウロを連れ出して用いた

それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。

<使徒11:22~>



# パウロを連れて伝道の旅に出た

彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出さなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、そこからキプロス島に向け船出し、

<使徒13:2~>



## 異邦人を救った(使徒15章)

- クリスマンになった異邦人もユダヤ人の律法を守らせるべきだ、と主張する者が多かった
- この問題を解決するためエルサレムで会議が開かれた
- バルナバとパウロは異邦人にも神が働かれることを証しした



## マルコを守った

数日の後、パウロはバルナバに言った。「さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町へもう一度行って兄弟たちを訪問し、どのようにしているかを見て来ようではないか。」バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネも連れて行きたいと思った。しかしパウロは、前にパンフィリア州で自分たちから離れ、宣教と一緒に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと考えた。



## マルコを守った

そこで、意見が激しく衝突し、彼らはついに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、一方、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて、出発した。 <使徒15:36-40>



# バルナバの背負った十字架

- 隣人と共にいる
- 隣人の味方になる
- 隣人の能力を引き出す
- 隣人を守る・保護する



# バルナバの背負った十字架

- 隣人と共にいる
- 隣人の味方になる
- 隣人の能力を引き出す
- 隣人を守る・保護する

**わたしたちの身代わりとなっ  
て死なれたイエス・キリスト  
を模範としていた！**



## マルコのその後

- わたし(パウロ)と一緒に捕らわれの身となっているアリストアルコが、そしてバルナバのいとこマルコが、あなたがたによろしくと言っています。 <コロサイ4:10>
- マルコを連れて来ててください。彼はわたし(パウロ)の務めをよく助けてくれるからです。 <2テモテ 4:11>